

# 愛の便り

校訓: 志が人生を創る



雲仙市立愛野中学校 学校便り

令和7年 1月 8日

第109号 (通巻)

文責 (校長; 末永栄喜)



## 寒中お見舞い申し上げます

約2週間の冬休みが終わり、いよいよ3学期が始まりました。年末年始は穏やか天気が続いたせいか感染症の報告もなく、加えて大きな事故やけがの知らせも届かず初日を迎えたことが何よりでした。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

ところで、「1年の計は元旦にあり」と言います。年初めに際してどんな目標を立てましたか。その目標に対してこうしてみよう、まずはこんなことから始めようという具体的で明確な対策を考えることも大切です。

今日の始業式でも子どもたちには話しましたが、この3学期は1学期や2学期と比べて授業日数がとても少ない学期です。また、1月は「行く月」、2月は「逃げ月」、3月は「去る月」と言われるようにあっという間に過ぎてしまいます。しかし、学年(年度)のまとめとして一番大切な学期であり、同時に「準備の学期」でもあるのです。

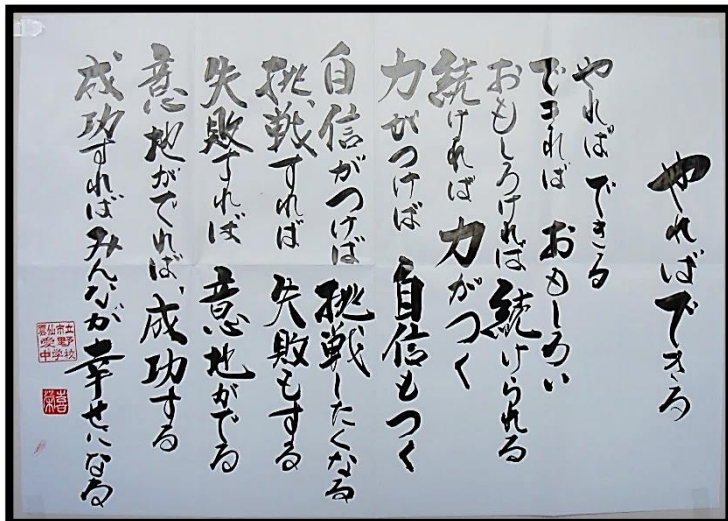
どの学年にとっても3学期の終了とともに新しい立場になり、これまでとは違う役割や責任が課せられます。その準備をするのがこの3学期であり、学校生活全体を通して進級や進学に備えた助走期間でもあるわけです。だからこそ、この3学期を「次の学年の0学期」と置き換えて生活してほしいと思います。何事にも準備が必要で、その準備が万端に整えば整うほど次のステップに進みやすくなるし、確実に前に進むことができるはずです。いわば、「足場固めの学期」を有意義に過ごしましょう。



とりわけ、3年生はいよいよ入試本番を間近に控え、発表を待てば、3か月後は全く違った環境、自ら望んだ高校での新しい生活が始まります。1,2年生は進級に備えてどんな生活をすればいいか、自分に対してどんな課題を課しながら生活をするか、真剣に考えてほしいところです。

みんなで力を合わせて、今年度の「有終の美」を飾りましょう。保護者の皆さま、これまで以上のご支援とご協力、そしてお力添えをいただきますよう改めてお願いいたします。

実は、始業式の中で次の詩も子どもたちに紹介しました。



残念なことに作者は不詳で、私自身もどうやって入手したかも覚えていませんが、手帳にいつも忍ばせているものです。勇気が湧いてきませんか。

「やればできる、、、」この詩の中で、特に意識してほしいと願っていることがあります。挑戦(Challenge)ももちろん大切ですが、その次が特に大事だと私は思っています。挑戦すれば失敗もする。失敗すれば意地が出る。この意地が、以前私が紹介した「何苦礎魂」なのです。失敗しても簡単に諦めず、今度こそ、今度こそと果敢に挑戦し続ける強い気持ちを持つことで成功を勝ち取ったり、目標を達成させたりすることができるのだと信じて疑いません。最後の「みんなが幸せになる」の「みんな」を学級の仲間や学校全体、あるいは家族に置き換えてもこの詩の言わんとすることが伝わってくるのではないのでしょうか。



1学期の終業式では「積小為大」、2学期の終業式でも「凡事徹底」という言葉を伝えました。その延長上に紹介したこの詩。一人一人の心に届き、年度の集大成としての幸せをつかみ取ってほしいと願います。

くれぐれもタイトル、そして書き出しに注目です。しなければできないのは当たり前。しようとしなければ何も始まりません。「やろうと思えば」ではなく、あくまでも「やれば」が大前提です。さあ、重い腰を上げて前に踏み出そうではありませんか。「よし やってみるか」と奮起してほしいと願っています。



## 校長室の窓から

### ながら学期の寄り添い方

子どもたちには前述の通り、この3学期はどうあるべきか、どう過ごすべきかを説きましたが、それは私たち教員にも言えることです。

年度初めに1年後のゴールの姿を見据え、それぞれの集団としての成長を支えながらここまで導いてきました。この3学期は年度のまとめをしながら、そしてその理想・目標に近づいたか、達成できたかを点検しながら、何が足りなかったか、その原因は何だったのかを追求して次年度に備える必要があります。

教員の生業(なりわい)は持ち教科の授業を通してまっぱら教えることがその核となりますが、それ以外のことや時間の中で子どもたちといかにかに接するか、つまりその「寄り添い方」にあります。これまでの成長・変容を認めつつ、次にどんな手を打ったり声掛けしたりすればいいか、個々に合った指導・支援が必要になるのです。中学校教員としての立ち位置で、どのように生徒一人一人に関わっていくかです。

正面から→毅然とした態度で、改めるべきは要求する。指導する。修正する。

真横から→一緒にやってみよう。真似してやっごらん。

後ろから→次は自分でやってみて。失敗しても大丈夫。

遠くから→どの子どもにも声をかけてあげたり。

近くから→今日の〇〇は良かったよ。

陰から→きっとできるよ。がんばって。

